

出典：マイ・エレメント  
 Disney・PIXAR  
 監督／原案：ピーター・ソーン  
 脚本：ジョン・ホバーク  
 キャット・リッケル、ブレンダ・シュエ  
 劇場公開日：2023年8月4日  
 製作総指揮：ピート・ドクター  
 製作：デニス・リーム  
 音楽：トーマス・ニューマン  
 キャスト：リア・アリス  
 マムドゥ・アチー  
 ロニー・デル・カルメン 他  
 日本語声優：川口春奈，玉森裕太  
 楠見尚己 他  
 引用元：HP



一枚の写真  
 信楽  
 慧

<https://www.disney.co.jp/movie/my-element>

この映画においては、最大の敬意を表すために、合掌のようなことをした後には手を前に出しませんが五体投地をしていました。足を触りはしませんでしたが、インドの挨拶ととても似ていました。このような繋がりから、宗教的な観点でこの映画を観てみると、神話であったり、キリスト教の考え方であったり、随所に見られてとてもおもしろかったです。各精霊の行動や火の精霊の差別など様々な点から現実社会のあり方について色々と考えさ

の子エンバー(主人公)は、ある日水の女の子のウエイドと出会い、徐々に親しくなっています。しかし、火の精霊は街で差別を受けており異なる精霊が一緒になることは難しい中で様々な問題に立ち向かっていきます。この映画で印象に残った点は、インド(仏教)で最大の敬意を表す挨拶が使われている点です。インドでは最大の敬意を表す際に、対象の周りを右回りで3回まわり、五体投地という両手・両膝・額(五体)を地面に投げ伏す形で相手の足を触ります。インドの観光地の仏跡では皆さんそのようにまわられていますし、日本でも東大寺などの順路もそのようになっているようです。

先日、ドイツニー・ピクサーの映画「マイエレメント」を観ました。その映画は、火・水・土・風の4つの精霊たちの街で繰り広げられる物語です。家族の店を継ぐことを夢みる火の女の子エンバー(主人公)は、ある日水の女の子のウエイドと出会い、徐々に親しくなっています。しかし、火の精霊は街で差別を受けており異なる精霊が一緒になることは難しい中で様々な問題に立ち向かっていきます。

せられる映画でした。皆さんもぜひ一度観てみてください。今回映画をみて、宗教的な観点からエンターテインメントはもちろん社会問題などを見てみることは大切だと再認識させられました。例えば、捕鯨やイルカ漁に対して海賊行為を行う「シー・シェパード」の問題があります。これは何年も前に大きな問題としてニュースにも取り上げられていたのですが、これは実は宗教的な問題なのです。キリスト教は命にランク付けをしており、人間が一番尊いという考え方を持っています。そのため、人間に近い哺乳類を捕獲して食べるという行為はキリスト教からすると「魚を獲って食べる」とはわけが違います。その他にも、臓器移植も宗教的な問題として存在しています。このように一見そうは見えませんが、こうした様々な問題に宗教的な考え方が関係してくるのです。

祖父信楽峻磨は信心のしるしは信心を通して物事を見るということだという話を良くしていました。しかし、信心を通して物事を見ることはとても難しいと思います。そこで、僕は宗教的な観点で現実の様々な物事を見ることが大切だと思います。そうすることで、宗教が身近にそして生活に根付いたものになっていくのではないかと思います。そしてそれは宗教のより深い理解、私たちが言うところ

安楽寺寺報

聞光

第109号  
 報恩講号

発行所  
 〒737-0054  
 吳市上山田町2-28  
 安楽寺  
 TEL: 0823-21-7561

安楽寺マンガ通信

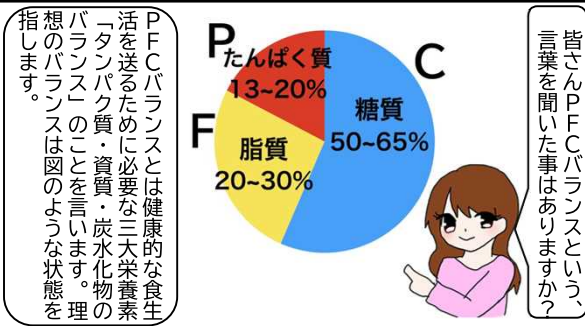
その59 信楽めぐみ作

ちょっと脳トシ  
 並び替えて  
 正しい単語にしよう!

- ① つくえしよぶん ( )
- ② ふいんしくよ ( )
- ③ しゅういんかっ ( )
- ④ ううおほこん ( )

編集後記  
 今号の1頁の記事を読んで、宗教的な観点で物事を見るというのは非常に大切な考え方だと感じました。聞光では3面に、「暮らしの中の仏教語」という記事にて、日常に潜む仏教語を毎号紹介しています。日本人は、宗教に関心がない人が非常に多いと感じます。そんな日本でも仏教は昔から根付いており、皆気が付いていないだけで、自分の言動や考えは仏教に基づいているのかも知れません。一度自分の言動、考えを振り返ってみて、そこに信心を感じることが出来たら素晴らしいことです。めぐみ

- ちょっと脳トシの答え
- ①しょくぶつえん (植物園)
  - ②ふいしくしょん (フィクション)
  - ③いっしゅうかん (一週間)
  - ④ほうおんこう (報恩講)



実は寝たきりの人でも1日摂取すべきカロリーは体重×20kcal、重さの中で過剰している人でも体重×25kcal、つまり体重60kgの人は、約1,500kcal摂取する必要があります！だいたい定食三回分くらいあります。

このバランスを気にした献立を作るのが大切なのですが、高齢者にとって注意したいのは、カロリー不足もあります。

いくらバランスの良い食事を心掛けていても、摂取量が足りないといと低栄養になってしまいます。

低栄養になると筋力の低下や骨折、寝たきりのリスクが高くなり、免疫力の低下によって感染症にかかりやすくなったりするなど、リスクがあります。

昔より量が食べられなくなった人も多いと思いますが、間食や食事の回数を増やし栄養をこまめに摂取することを心がけましょう！

低栄養の目安は体重が6カ月間に2〜3kg減少された方は要注意です。

※あくまで健康保持の目安であり、ダイエット等目的や個人によって異なります。

# お念佛のしずく

## 念仏の歴史:



私たちが真宗念仏を学ぶについては、何よりもまず、念仏の歴史に触れるということが大切です。この歴史、より具体的には人格、念仏してそういう「めざめ」体験をえた人、念仏して浄土に向かって歩いていった人、もちろんすでに亡くなされた後の言葉でもよい、伝記でもいいのですが、ともかく、そういう具体的な事実、人格に出会うということが大切であります。

明治時代の真宗僧侶に、七里恒順という人がおりました。彼はこういうことを言っています。電車の線路の上をいくらうらうら歩いて、電車には乗れない。もしも目的の地に行こうとするならば、駅に行つてチケットを買つて電車に乗ればよるしい。いくら理屈、教理を学んでも、具体的な人格に出あなければ何にもならない、と言っています。彼は駅を人格と言いたいわけです。駅に行くこと、確かな念仏の歴史に触れて、人格に出あうことによつてこそ、始めて目的の地に達することができる、と申しております。まことに見事な譬え話だと思ひます。『真宗の大意』

# 真宗門徒のお葬儀

信楽 晃仁

ろの信心に繋がっていくのではないかと  
思ひます。  
これは、祖父がよく言つていた話に通  
じるところがあるかと思ひます。信心を  
持つて念仏をすることが大切だが、最初  
から信心を持つことはできない。まずは  
念仏をしてみるところから入ることが重  
要である。信心があるから宗教的な観点  
で物事を見ることが出来るのかもしれない  
が、宗教的な観点で物事を「見よう」と  
して「見る」ことで、信心に近づいていく  
ことができるかもしれない。そういういた  
側面を持つことではないかと思ひます。  
私たちは浄土真宗の門信徒として「信  
心をもつて現実や物事をみる」そして「  
信心を持つているか分からない中でも宗  
教的観点で物事を見よう」として「こ  
とが大切なのではないかと思ひます。

今年八月の終わりに、お元気な時には  
安楽寺によくお参り下さり、お聴聞をか  
さねられた、おばあちゃんが享年百四歳  
で往生されました。安楽寺の法座では  
一番前の席で御講師のお話をお聴聞して  
おられました。前任職の話も好まれ「先

生の話は他の  
先生の話とは  
迫力が違う」  
と坊主に話し  
て下さいまし  
た。最後まで  
しつかりとさ  
れてご家族の  
皆さま、子ど  
もさん、お孫  
さんともお別  
れをして安ら  
かにお浄土に  
帰られました。



お勤めができました。お話しもお浄土に帰られた  
ことを確信を持つてお話しできますので心は軽快で  
す。ご家族も心配や不安と無縁な葬儀がお勤めでき  
るのはとても有難いことです。これをお読みの皆様  
もいづれは必ず通らなくてはならない道です。自分  
のお葬式の時に、皆が安心して安らかにお葬儀がで  
きるようにしておきたいものです。

そのご家族が、おばあさんがご往生されて、生前  
参加しておられたある会に参加したそうです。そこ  
で会員の方に「母が亡くなりました」と告げると「  
おめでとうございます」と言われて、戸惑つたとい  
うお話を七日参りの時にして下さいました。浄土真  
宗の歴史の中で、深い信心がしみこんだご法義な土  
地では、葬儀の時に「おめでとうございます」とい  
う挨拶をする所がありました。  
「この度お浄土にご往生され、仏と成られたこと、

まことにめでたいことです」と言う意味でし  
よう。現在の社会常識の中では、中々の言  
葉は出せませんが、こうした言葉が通じる世  
界は、とても幸せなことと思ひます。是非  
皆さんも、このような状況を整えておきませ  
んか。お葬儀は人生の卒業式だと言われまし  
別れは辛いけど、新しい世界に足を踏み出す  
喜びのご縁でもあり、お念仏に会つたものは  
また会う世界も開けます「おめでとうござい  
ます」の言葉がふさわしいご縁にしたいもの  
です。  
さて、そのお葬儀の時のことです。お通夜  
の夜にご遺族からお電話を頂き「明日の葬儀  
はみんなでお勤めをしたい。ついでに安楽寺  
の聖典をお借りできないか」と言うことでし  
た。それは願つてもないことと、二つ返事で  
葬儀会場に安楽寺生活聖典を持っていきまし  
た。そしてみんなで葬儀のお勤めを致しまし  
た。この葬儀会場の雰囲気、そしてみんなで  
お勤めする葬儀のお経、素晴らしいお葬式で  
した。横たわるおばあちゃんが阿弥陀様と一  
つになり、私たちを導いて下さいました。会  
場の空気が一つになつてお浄土の様相をあらわ  
した気がしました。  
安楽寺生活聖典は、葬儀の時にもみんな  
一緒にお勤めしたいという思ひで、中に葬場  
勤行次第に添つてお経を入れてあります。一緒  
にお勤めすることで、みんなが同じ方に向い  
て阿弥陀様のお働きを実感するお葬儀にし  
たいことです。

# 暮らしの中の仏教語

## 「ウロウロする」

「ウロウロする」とは日常よく使う言葉ですが、これも仏教の教えから来  
ています。仏教では煩惱や迷いの世界にいる者を有漏(うろ)といい、煩  
悩・迷いを除き尽した者を無漏(むろ)といいます。煩惱・迷いは、人  
間の肉体的本能や潜在意識から知らず知らず漏れ出してくるものとして  
〈漏〉と名付けられました。  
つまり「ウロウロ」とは「有漏有漏」と書き、煩惱・迷いの世界にどつ  
ぷりつかつている状態をあらわします。私たちがウロウロする時は、た  
いていの場合、路がわからず迷つているか、目的地がわからない、目的が  
なくて、ウロウロしてしまうのではないのでしょうか。私たちの人生の歩み  
も同じです。この人生をどう生きればいいのか、どこへ向かえばいいのか  
全くウロウロしてばかりの人生で終わつてしまつては空しいことです。  
仏法はウロウロとしか生きられない凡夫に無漏という悟りの世界への路  
を示してくれます。どうぞ有漏を脱し無漏を求めてお寺にお越し下さい。

# 安楽寺法要案内

## --報恩講法要--

日時 11月25日(土)  
朝座・昼座  
講師 広島市 常念寺  
桑門 真昭 先生  
講題 平生業成の行人

## --御正報恩講--

日時 1月20日(土) 朝座  
講師 自勤



時間 朝座10:00～・昼座13:00～  
会場 安楽寺本堂  
※新型コロナウイルスが感染拡大  
した場合、急遽中止する場  
合があります。